



な っ と く ん の

山口県立山口博物館 学校地域連携担当

2017年10月12日 No.195

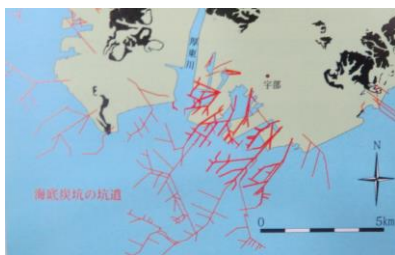
なるほどなっとくニュース

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

CM Community Museum
地域の宝 学校の宝

黒いダイヤで発展 宇部市

宇部市神原ふれあいセンターで、出前授業を行いました。宇部市のときわ公園内には、石炭記念館があります。石炭は、「黒いダイヤ」とも呼ばれ、古くから燃料として活用されてきました。宇部市は1967（昭和42）年に、すべての炭鉱を閉山するまで、石炭産業で発展してきました。山口県の地質の歴史から見ると、古第三紀（約6600～2300万年前）は、激しい火成活動が終わった比較のおだやかな時期でした。宇部小野田地域の南部は、浅い海で当時の植物がたくさん堆積しました。これらの植物は、その後地熱などの影響を受けて、一部は石炭になりました。江戸時代には、地表面に露出していた石炭を掘っていましたが、次第に地下を掘るようになり、明治時代の中頃には海岸部に進出しました。大正時代になり石炭需要が増加すると、炭鉱開発が進められ、海岸から沖合に坑道を伸ばしたり、島を築いたりして、海底の石炭を採掘するようになりました。宇部炭田は、宇部市海岸から沖合に伸びる海底炭田で、1897（明治30）年から開発され、1940（昭和15）年には、80を越える炭鉱がありました。危険な作業で、海水が流入する事故も起こっています。エネルギーの主役が石炭から石油に移ると、石炭産業は徐々に衰退していきました。しかし、石炭は、日本の産業の発展に大きな役割を果たしたといえます。



海底炭鉱の坑道（赤線）
（やまぐちネイチャリングマップ）



↑石炭
←珪化木＜植物化石＞
（いずれも宇部市沖の山
旧宇部炭田）



旧本山炭鉱斜坑坑口
（山陽小野田市）



モデル坑道
（石炭記念館）



坑内石炭運搬車
（石炭記念館）

山口博物館では、「山口県の大地」のコーナーで、岩石標本を使ってその成り立ちを説明しています。